

6496 中北製作所

中北 健一 (ナカキタ ケンイチ)

株式会社中北製作所社長

顧客に信頼されるものづくり企業へ

◆事業概要

当社は大阪府大東市を本拠地とし、1937年5月に設立された。個人創業は1930年であるので今年創業85年にあたる。船舶や火力発電等の陸上プラント向けに流体の自動制御システムとして、自動調節弁、バタフライ弁、遠隔操作装置を全量受注生産により製造・販売し、客先のニーズに対応している。14/11期の売上高構成比は、船用67.9%、陸用32.1%だった。

船用製品では、遠隔操作装置、バタフライ弁、機関室用調節弁を一括製造して納入する。当社製品はタンカー、バルクキャリア、コンテナシップ、LPG・LNGキャリアなどさまざまな船型で使用されているが、バルブが最も多く使用されているのは、原油、プロダクトオイルなどを積荷とするタンカーである。船会社は、当社に依頼することにより、システム製品を購入できるだけでなく、部品のサプライからアフターサービスまで一括で受けられるメリットを享受できる。当社の信頼性の高い品質ときめ細かなアフターサービス体制は船主並びに造船所からも高い評価を受けている。

陸用製品の売上で大きな比率を占めるのは、火力発電・ガスタービン用制御弁であり、燃料ガス制御弁、燃料ガス温度制御弁、コンプレッサ抽気弁、潤滑油圧力制御弁などを取り扱っている。また製鉄所向けには、高炉ガス焚きガスタービン用制御弁として燃料ガス遮断弁、燃料ガス流量制御弁なども取り扱っている。このほかにケミカルプラントにも、安全弁や減圧弁を中心とする自動調節弁を納めている。

流体制御システム製品を一括製造・販売する当社のワンストップソリューションを支えるのは国内外に広がるサービス網である。国内サービス網では、大阪本社、東京営業所、北九州営業所に当社のサービスエンジニアが常駐する。このほか各地に提携サービス会社がある。提携会社にはトレーニングを受けたサービスエンジニアがおり、国内どこへでもサービスエンジニアを派遣できる。また海外では、ヨーロッパで荷役の多いロッテルダム、そして船の定期点検業務が集中するシンガポールに提携会社がある。

◆2015年5月期第2四半期決算概要

専務 大平 文人

当第2四半期決算は、売上高81億88百万円(前年同期比13.9%減)、営業利益4億17百万円(同36.3%減)、経常利益5億18百万円(同31.3%減)、中間純利益3億23百万円(同29.4%減)となり減収減益であった。また期初計画に対しては、売上高は若干上回ったものの、利益面は船用関連の収益が想定を下回り、すべて計画値を下回る結果となった。その結果1株当たり中間純利益は17.12円(前年同期23.99円)に低下した。

生産高は、自動調節弁が43億72百万円(前年同期比0.3%増)と前年並みの水準を維持したものの、バタフライ弁が19億5百万円(同29.8%減)、遠隔操作装置が19億62百万円(同18.1%減)とそれぞれ減少し、全体で82億40百万円(同13.0%減)となった。また受注高は、自動調節弁41億45百万円(同3.6%減)、バタフライ弁21億43百万円(同7.6%増)、遠隔操作装置22億64百万円(同12.7%減)であった。バタフライ弁が若干増加し

たものの、自動調節弁と遠隔操作装置が前年同期実績を下回り、合計は 85 億 53 百万円(同 3.7%減)となった。一方受注残高は、自動調節弁 43 億 26 百万円(同 2.1%減)、バタフライ弁 28 億 24 百万円(同 38.2%増)、遠隔操作装置 31 億 4 百万円(同 17.1%増)である。売上高を上回る受注高を確保でき、受注残高合計は 102 億 54 百万円(同 12.6%増)となった。

部門別売上高は、自動調節弁 43 億 45 百万円(前年同期比 0.7%減)、バタフライ弁 18 億 93 百万円(同 30.6%減)、遠隔操作装置 19 億 50 百万円(同 19.0%減)となり、それぞれ前年同期実績を下回った。また陸・船用別でも陸用製品が 26 億 29 百万円(同 15.9%減)、船用製品が 55 億 58 百万円(同 12.9%減)といずれも減少した。

地域別売上高では、国内向 66 億 23 百万円(前年同期比 14.5%減)、韓国向 3 億 72 百万円(同 45.6%減)、中国(香港)向 10 億 4 百万円(同 12.8%増)、その他国外向 1 億 88 百万円(同 1.9%減)となり、国内向と韓国向を中心に前年同期実績を下回った。その結果輸出比率は 19.1%(同 0.5 ポイント増)となった。

貸借対照表における当第 2 四半期末の資産合計は 253 億 28 百万円(前期末比 30 百万円増)となった。流動資産は 192 億 43 百万円(同 76 百万円増)であり、その主な内訳は、現金・預金 69 億 61 百万円(同 3 億 6 百万円増)、売上債権 68 億 67 百万円(同 6 億 36 百万円減)、棚卸資産 38 億 97 百万円(同 1 億 79 百万円増)である。またその他流動資産は短期運用 2 億円を中心に 15 億 17 百万円(同 2 億 27 百万円)に増加している。固定資産は、減価償却 1 億 37 百万円に対して新規投資が 60 百万円にとどまったことなどを背景に 60 億 84 百万円(同 46 百万円減)となった。一方負債の部では、流動負債が、未払法人税等の 3 億 47 百万円減少によりその他流動負債が 3 億 96 百万円減少したことを主因として 55 億 67 百万円(同 3 億 98 百万円減)となった。また固定負債は退職給付引当金の会計基準変更もあり 1 億 68 百万円増加したことを受け、3 億 80 百万円(同 2 億 30 百万円増)となった。純資産合計は 193 億 80 百万円(同 1 億 98 百万円増)となった。

◆2015 年 5 月期通期業績見通し

2015 年 5 月期通期業績は、売上高 165 億円(前期比 10.3%減)、営業利益 8 億 40 百万円(同 37.8%減)、経常利益 10 億 40 百万円(同 32.0%減)、当期純利益 6 億 50 百万円(同 29.2%減)の減収減益を計画している。期初計画は売上高 185 億円、営業利益 12 億 50 百万円、経常利益 14 億円、当期純利益 9 億円としていたが、比較的採算の良いメンテナンス・部品関連及び船用関連の受注・売上が当初想定よりも厳しく、通期業績を下方修正することとなった。1 株あたり利益は 34 円 39 銭となる見込みである。ただし配当は期初計画通り中間配当 10 円、期末配当 10 円を維持する考えである。

受注高は、上半期実績 85 億 53 百万円を受け、通期は 175 億円を計画している。その結果、受注残高は、上半期実績が 102 億 54 百万円であり、通期は 108 億 90 百万円を予想している。受注環境は厳しい状況にあるが、国内経済は緩やかな回復基調が続いており、積極的な顧客訪問により受注ニーズの掘り起しに努め、計画達成を目指す。なお、当期の設備投資は、減価償却費の計画 3 億 7 百万円を若干上回る水準の 3 億 67 百万円を計画している。

◆今後の展望

社長 中北 健一

現在、当社では工場再編プロジェクトの更なる進行として「生産性向上に関する改革・改善への取り組みを行い、継続的な製造力強化、変化への機敏な対応ができる体制づくり」を目指している。14/11 期トピックスとして、まず生産設備の事後保全から予防保全への移行があげられる。これにより機械の故障による突発的な稼働停止の削減への取り組みが進み、その結果、直近の不測の稼働停止が大幅に削減した。

次に、他の追従を許さない高度な生産技術の蓄積と伝承は当社の強みの一つであり、社内における加工技能教育プログラムに基づき、加工技能の維持・向上・伝承に取り組んでいる。具体的な活動として、加工技能の社内

認定制度を導入し、認定テストを定期的実施している。

また、小型弁組立の新ラインを開発し、生産性向上にも取り組んでいる。

今後の市場環境を展望すると、原子力発電関連の需要は先行き不透明であるが、その代替として火力・ガスタービン発電関連の需要が見込まれる。また造船業界では、世界的な船舶の過剰感がある。低船価を背景に受注回復の動きがみられるものの、価格競争は依然として厳しい状況である。

このような市場環境の下、当社では顧客の立場に立ったワンストップソリューションを提供する提案型営業活動を継続する。そして価格競争が厳しいなか、受注獲得に向けた生産性向上活動も推進する。また不適合やムダを徹底的に排除することにより、更なる原価低減を図っていく。さらに受注生産型企業にとって最大のキーポイントは人材力であり、この厳しい時代に勝ち残るには技能者の能力を最大限に引き上げることが最優先事項であるという認識のもと、加工技能認定テストの実施を導入し、技能の伝承と人材育成を柱に、企業体質を強化していく。厳しい環境下においても、きめ細かな営業活動に注力し、原価低減活動に努め、生産性向上活動に取り組むことにより、顧客に信頼されるものづくり企業として勝残りを目指す。そしてより長いスパンに立った安定経営の継続に向けて、今後も努力していきたい。

(平成 27 年 2 月 3 日・大阪)

* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見るができます。

<http://www.nakakita-s.co.jp/ir/library.html>